

○公述人 8 : 嫡野 憲二

【公述人】

皆さんこんにちは。私は石木ダム建設佐世保市民の会会長代行をつとめております嫡野と申します。

今回の公聴会においては石木ダム建設賛成の市民の代表としての立場から、特殊な佐世保市の水事情が市民生活全般に及ぼしてきた影響について意見の発表をさせて頂きたいと思っております。

市民の会は名前の通り石木ダム建設を推進するための団体でございますが、その構成は、佐世保市連合町内連絡協議会をはじめとして殆どの佐世保市民と主要な28の団体が加入しており、まさに全市民的な団体であると自負しております。何故このような全市民的な団体を設立することになったのかと申しますと、それは勿論長い間水源不足の窮状にさらされ続け厳しい湯水を何度も経験してきたからであります。

長く佐世保市の生活の拠点をおいている生粋の佐世保市民は誰もが新たな水源確保を望んでおります。

私たち佐世保市民は、湯水がどれだけ大変なものであるのか、水道がでないということがどれだけ不便で不衛生で、非経済的なものであるのかの身をもって体験しております。蛇口をひねればいつでも水が出るという現代日本では当たり前のことが、どれほど大切なことであるのかということをよく知っています。

今でも鮮明に記憶に残っているのは最も私たちを苦しめた平成6年の大湯水です。この時は全国的に水不足になり列島湯水とも呼ばれていたため佐世保だけの湯水ではないと言われる方がおられるようですが、この時の湯水でも佐世保の給水制限が日本一厳しかったものと記憶しております。9か月の長期にわたり給水制限が実施され2日間です時間しか給水しないという非常に厳しい制限が続きました。

水道から水が出ないということだけで人々がどれだけ絶望感を感じるのかは、この湯水を経験した佐世保市民なら誰でも知っています。なにせ2日間のうち僅かな時間しか水が出ませんのでその時間を逃したら次の給水まで更に2日間待たなければなりません。夫婦共働きなど昼間に家を空ける家庭では給水時間に合わせて仕事を休み、急いで家に帰りバケツやポリタンクに水を溜め、再び仕事に戻るといった給水時間に振り回される生活を強いられました。

そのようにして苦勞して溜めた水も家族で使うとたちまち汚れてしまいます。しかし蛇口から水がでることはありませんので多少の油やホコリが浮いていても、少々のゴミが沈んでいても我慢してその水で顔を洗い、歯を磨き、料理も作りました。お風呂の水も2日間同じ水を使わなければなりません。トイレもバケツで流さなければなりません。人数の多い家庭ではトイレも何回か溜めてからしか流せないようなところもありました。

またこのようにして水を使うためには、大きなバケツやポリタンクを幾つも用意して、トイレ用、料理用など使う目的ごと分けてそれぞれの場所に運んで用意しなければなりません。給水時間の後に重労働が待っているのです。若い男性でも苦勞する作業でありましたので、女性にとっては非常に厳しい仕事となりました。ましてや高齢者や障がい者などの生活弱者にはとてもこなせるものではありません。このような方が近所や親戚にいたならば、その人たちのお世話もしなければなりません。

自分の水の確保だけでも大変なのに他人の世話までとなると、相当な苦勞がありました。高台の地区では、水圧の問題からか給水時間になっても水が出ない地域もありました。2日に1度の水さえないのです。水道局の給水車がきて水を配られてはいましたが、家の中での水の運搬だけでも大変であったのに、その方々は給水車から家までの水の運搬も行わなければならず大変な重労働が強いられた

ました。エレベーターのないアパートにお住まいの方等は途方に暮れておられました。

この様に私たちの家の中で使う水の確保だけでも、語り始めればきりが無いほどの苦しみがあったのです。当然家の外に出かけても水は出ません。公園でもデパートでも学校でも同じです。そういった場所のトイレ等には大きなバケツに水が溜められ、そこに柄杓が置かれていたと聞きます。そこでは誰が使ったか解らない柄杓で水をすくってトイレを流していました。

飲食店や理美容院など水が商売に直結するようなお店では、営業自体が出来ない死活問題にさらされ中には廃業に追い込まれたところもあると聞きます。漏水の影響は教育の現場にも波及しました。夏場の水泳の授業が全て中止されただけでなく、給食もパン中心の水を使わない限られたメニューに切り替わりました。子供たちの不満げな声や表情が新聞やテレビで何度も報じられていたことを私も記憶をしております。

この様な新聞報道もありました。給水制限期間中に発生した火災が水が出ないために、初期消火ができず消火活動が遅れ被害が大きくなり建物も全焼したというものです。私は身が震えるほどの不安を覚えました。

水道が出ないということは生活そのものを不便、不潔、不衛生にするというだけでなく、健康や財産、人の命までも失いかねない事態につながることもなるのです。このようにつらく長い状況を経験をしたからこそ私たちは普段から辛抱しながら水を使っております。市民の会の中には、今でも同じ風呂の水を数日間続けて使用するという方もおられます。私の家庭でもお風呂の残り湯を洗濯に使うなど水の使い方には日頃から気を配っております。

私には濁水を経験したことのない県外の親戚がおりますが、我が家に遊びに来た時に、何の気兼ねなく水をじゃぶじゃぶと使うのを見て、ぞっとしたほどです。湯水のように使うという言葉もあるように、それが通常の感覚なのかもしれませんが、佐世保の生活において水は貴重なものですから、この言葉は当てはまりません。

私達市民の会は地元経済を支える各種団体も含まれています。佐世保は造船の街、基地の街などいろんな顔をもっていますが観光の街という大きな一面を持っており、観光が街の経済を支えています。しかし考えてみてください。給水制限で水が出ないといっている街に観光に行こうと思う人がいるでしょうか。

濁水当時、ホテルや旅館には宿泊客はほとんどいなかったのではないのでしょうか。市民も水の確保に追われて街を出歩く余裕はありませんでしたから、街は本当に閑散としておりました。客がいないと嘆くタクシーの運転手さんのインタビューがテレビで流れていたかと思います。先ほども申し上げましたように廃業に追い込まれる店舗もありました。

地域経済の活性化は二の次だと考えておられる方もいらっしゃるかもしれませんが、地元経済の衰退は、そのまま市民生活の衰退に直結するものであります。私たち市民も佐世保の街も疲労困憊して極限の状態にあったかと思えます。

長く苦しい濁水でありました。そしてようやく長い濁水が終わったと思ったやさき、水道料金が値上げされ跳ね上がりました。濁水対策で莫大なお金を使ったために、水道局の経営状態が悪化したからとの理由でした。

使いたい水も使えず大変に苦しい思いをさせられたにもかかわらず、水道料金が値上げされたのです。私たちの節水努力も水道局からすると水道料金収入の減少にしかならず、経営状態の悪化の要因となっていたのです。苦しい思いをさせられ普段から努力もしているのに、料金が高くなるというのは、理屈は理解できても心情としては、納得できるものではありません。

もう2度と苦しい思いはしなくてもいいからと言われれば納得も出来ますが、水道料金が値上げさ

れたからと言って濁水がなくなったわけではないのです。事実平成19年の冬場にも濁水となり、断水のお知らせのチラシが新聞に折り込まれ私たちは肝を冷やしました。幸いにもぎりぎり雨が降り断水だけは回避されましたが、何も改善されていないことが解り、私たちの不安は募る一方であります。ましてや異常気象増加によって、今後ますます濁水が起こりやすくなり濁水の規模も大きくなると様々なメディアで報じられておりますが、私達佐世保の街は、もうあの濁水には耐えきれません。佐世保の街は死んでしまいます。

佐世保市は、長崎県県北地域の中心都市で長崎県で2番に大きな都市です。佐世保市を中心として東彼地区や北松地区等の周辺の市町で一つの大きな経済圏を構成しており、市町の枠をこえて同じ生活圏を形成しています。したがって佐世保市が衰退していくということは県北地域全体が衰退していくことにもつながります。そういった意味でこの水問題は、佐世保市行政だけではなく県や国がもっと真剣に考えて取り組んでいってもらわなければならないお大きな問題ではなからうかと思います。

平成6年の大濁水から10数年が経過し、当時は小さな子供で苦労をよく知らない若者や、濁水後に佐世保に引っ越してこられた方が今では市民の半分以上を占めていると聞きます。のど元過ぎればではありませんが、佐世保市民全体としてみたときには濁水の記憶が薄まってきているのかもしれない。

- 最近では、佐世保の水は足りている、水がなくても困らないなどと発言されている佐世保市民もおられるようですが、このような方々のうちいったい何名が濁水のつらさを経験されているのでしょうか。日頃どのような水の使い方をされているのでしょうか。今佐世保の街が濁水にならずに済んでいるのは、たまたま降雨に恵まれているだけではなく、濁水を忘れずにいる私たち市民の我慢と努力があってこそのものであります。それを知っていれば、水が足りているなんていう言葉はとても言えたものではないはずです。少なくとも苦しさを知っている私には、とても信じられない言葉です。

私たちは川棚町の予定地にお住まいの方々のふるさとを思う気持ちが解らないと言っているわけはありません。むしろそれだけ強く土地を愛されていることは素晴らしいことと思えます。私たちも長く佐世保の街に住み続けており、同じく郷土愛をもっておりますので、佐世保の水のために愛する土地を離れたくないとの気持ちは十分に理解しております。

だからこそ私達佐世保市民の切なる願いや窮状をきちっと伝えていこうと、この市民の会を結成し活動を続けてまいりましたし、本日この場に立たせてもらったものであります。

私たち少なくとも濁水を繰り返し経験してきた佐世保市市民は、石木ダム建設で水不足の不安が解消されることを心から望んでおります。国におかれましては私達佐世保市民が本当に苦しんでいることをご理解賜り、石木ダムの完成についてご英断を頂きます様にぜひお願い申し上げますと致します。